

職場の奨学金受給の有無による看護学部卒業生の 行動や考えの比較

—看護学部卒業生動向調査 その4—

三浦 康代, 山下 八重子, 松岡 みどり

看護学部

本学看護学部卒業生の職場の奨学金受給の有無による行動や考えの比較を行うことを目的に、卒業生動向調査回答者55名のうち、主婦2名を除外した30歳以下の者42名を分析対象とした。A群：奨学金の縛りなし（奨学金受けず＋奨学金返済済み）、B群：奨学金の縛りあり（奨学金返済免除のために勤務中）に分け、現在の職場が何か所目か、本学での学びの役立ち程度（5件法）、仕事における行動や考え（5件法）について比較した。検定はフィッシャーの有意確率を用い、有意水準は $p=0.05$ とした。職場を辞めたいと思ったことがある者は、A群がB群より有意に多く見られた（ $p<0.05$ ）。看護の仕事にやりがいを感じる者は、A群が63.6%、B群は52.6%で有意差はなかった。現在の職場が2～3か所目の者は、B群がA群より多い傾向であり（ $p=0.057$ ）、奨学金が人材確保につながっていない場合もあると考えられた。B群のほうがA群より、看護専門職として地域に貢献するという回答が有意に多く（ $p<0.05$ ）、研究会等にも自主的に参加する傾向であった（ $p=0.087$ ）。B群は返済義務を果たしながら、地域貢献の気持ちを持って、スキルアップにも励んでいると推測された。